

I 実践

1 研究主題

思いやりをもって誰とでも仲良くできる仲間をつくる環境づくり

2 主題設定の理由

本校では、「児童一人一人の可能性と人間性の基盤づくりのために」を基本理念として、知（かしこく）・徳（なかよく）・体（たくましく）の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図っている。それを受けて人権教育では、「人権教育の目標や内容等を、各教科・道徳・特別活動の特質に応じて、指導計画に適切に位置付け、指導の充実に努める」を目標の一つとしている。

そこで、学校教育活動全体を通して、分け隔てなく誰とでも仲良くできる児童の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 人権週間の実践

ア 人権メッセージを書く。

全学年が取り組んだ。低学年は、保護者と一緒にメッセージを考え、人権意識を高めるよい機会となった。中高学年は、友だちや家族との関係で感じていることや自分の考えを体験をもとに書いて訴えかけた。

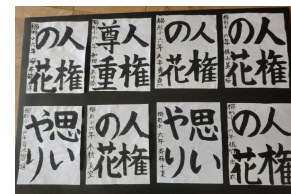
イ 人権書道

夏休み明けに5、6年生が取り組んだ。「人権尊重」や「自由平等」などの作品を心を込めて仕上げた。

金賞 10名

銀賞 8名

銅賞 2名 以上20名の作品が入選した。



〔人権書道応募作品一部〕

ウ 人権コーナーの設置

人権啓発ポスターや児童のメッセージを掲示した。自分一人で悩んでいたり苦しんでいたりにしているかもしれない児童にとっては、共感できそうな内容のものもあり、それを選んで匿名にして掲示した。友達の名前を知らせたほうが良い場合もあったと思う。



〔人権メッセージ〕

(2) 人権教育の目標を基盤にした教科・特活指導

ア 生活科での「人」との関わり

・なかよしフェスタ（1・2年）

2年生が1年生を招待し、風や空気ゴムを動力にして動く簡単なおもちゃを製作し、1年生に体験させる交流学习を行った。1年生は、体験したことを来年新1年生に伝えることになっている。

イ 総合的な学習の時間

・総合的な学習の時間発表会

高学年が、低学年に向けて学習の成果を発表する機会を設ける予定である。

ウ 道徳における指導

児童の実態や学年の発達段階に応じて、生命の尊重、規範意識の高揚、善悪の判断、思いやりや助け合い等の内容について、重点化を図りながら指導に努めている。また、道徳における資料ばかりでなく、各教科指導における豊かな体験と関連させながら道徳的心情の醸成に努めている。

エ 特別活動における指導

各教科・道徳・総合的な学習の時間・校外での体験活動等や各種行事と関連させ、学級や学校生活の充実と自立を目標に学級活動や児童会活動に取り組んでいる。本年度の児童会活動のスローガンは、「夢と希望と笑顔あふれる櫛形小」である。この目標をもとに、異学年に渡る集団活動や各集会活動の充実に努めている。

オ 豊かな心を育てる読み聞かせ

・朝の読み聞かせ

PTA ボランティアの方が絵本の朗読を行い、子供たちは静かに話を聞くことができた。人の話を聞く態度がよく、落ち着いた学校生活を送ることができた。

カ ボランティア委員会 （全校児童）

・あいさつ運動

周辺学校と地域住民に呼びかけ、あいさつの良さを訴えた。登校時間に校内外で「あいさつ声かけ運動」を行い、元気な気持ちの良い朝のあいさつを交わすことができた。

・全校ボランティア活動

校舎の清掃活動を通して、「気づき・考え・実行する」ことが身に付くように各学年ごとに計画を立て取り組んだ。

(3) その他

ア なかよしタイム

なかよしタイムを設け、業間休みに異学年交流を行っている。

1～6年生の縦割り集団を編成し、班長を中心にそれぞれの班で計画した遊びを、年3回行っている。上級生は、下級生の面倒を見て、また、下級生は教えてくれる上級生に親しみをもって接することができ、楽しく活動することができた。



〔なかよしタイムでのふれあい〕

イ 地域の方との交流 （3年「十王地区敬老会」）

地域のお年寄りの方と交流を深め、感謝の気持ちと思いやりの心をもつことができた。



〔感謝の手紙〕



〔代表児童のあいさつ〕

ウ 創立140周年式典

式典が開催され、全児童が地域の方々から昔の楡形小学校の様子について話を聞いた。一人一人の将来の可能性について激励を受け、子供たちは夢と希望をもつことができた。

(4) 学年集会などで友達メッセージを一部紹介した。～人権メッセージより

事例

- ・「私のクラスにはいろんな人がいる。だからこそ、私の今のクラスは楽しいと思える。毎日たくさんいいことがあってもわすれてしまう。」（6年）
- ・「自分は何ができるんだ？役にたっていないんじゃないか？お母さんが『弟のめんどろを見てくれてありがとう』とってくれた。ありがとうといってもらうのがうれしい。」（5年）
- ・「いじめってなんだろう？いじめている人もぜったいいい気持ちじゃない。じぶんは注意するよ。そうしたらみんな笑顔ですごせるから。」（4年）

4 成果

「思いやり」「自由平等」「人権尊重」など人権書道の課題が提示され、今年も多く児童が出品した。人権メッセージへの応募も全学年で取り組んだ。道徳や特別活動、各行事等の豊かな体験で児童たちの心も育っている。さらに、児童へ人権の大切さを訴えたことで、人権に対する意識をもたせることができた。

II 今後の課題

人権書道コンクールと人権メッセージは、今後も継続して取り組んでいきたい。児童一人一人が自信をもって学校生活が送れるように、教師自身が人権感覚を高め、人権教育ができるゆとりのある環境をつくっていききたい。そのために、教師による人権教育について検討する機会を設けないと考えている。児童に対しても人権教室などを開いて、「人権とは何か」具体的に学習できる時間を設けて啓発していく必要があると考えている。